



## 雨の日に 楽しい発見！

園長 米澤 千秋

先日の小雨が降る朝。「今日は外で遊べないな。。。と、残念そうな様子の子どもたち。教師は園庭に設置したテントの中に、色水遊びやシャボン玉ができる場を設定しました。子どもたちは、色が出る紙の枚数を調整したり、違う色の紙と混ぜたりして、いろいろな色を作ったり、色の濃度を変えたりすることを楽しんでいました。また、シャボン玉液作りでは、シャボン玉がうまく膨らむには、削った石鹼とぬるま湯をどれだけの割合で混ぜ合わせたらよいか、試行錯誤する姿もありました。



しばらくすると雨が見る見るうちに大降りになり、テントの中にいた子どもたちは「わあ～すごい！」と、遊んでいる手を止めて、大粒の雨の様子を驚きの表情で眺めています。室内で遊んでいた子どもたちもその様子に気づき、テラスに出てきました。ものすごい勢いで降り続く雨に、教師も一緒に「本当にすごい雨だね」と子どもたちの驚きに共感しつつ、テントの前にタライを一つ置きました。子どもたちは「わあ雨がたまってる！」とわくわくした表情に。するとAちゃんが部屋からままごと用のフライパンを手に持ち、雨のほうに差し出しました。「どんどんたまるよ」と嬉しそうです。

その後子どもたちは、卵パックや牛乳パックなど、思い思いの物を並べ「もういっぱいになった！」「なんかボコボコって音がする」と、容器によって水が溜まる時間や音が違うことに気づき、言葉で表現したり、友達や先生と共有したりして楽しみました。その後雨は弱まり、午後には日差しが出てきました。子どもたちは、先ほどの大雨からは想像もできない青空の中、「お外行ってきまーす」と、砂場や三輪車などで遊んだり、飼育物の世話をしたりして過ごしました。

幼児期には、「自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く」「季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」「自然などの身近な事象に感心を持ち、取り入れて遊ぶ」などの経験をすることが大切とされています。子どもたちが自然に触れる機会の充実を図り、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎を培っていきたいと思います。

### 青柳幼稚園に可愛い仲間が増えました！



先月の園だよりでお知らせしました通り、井の頭自然文化園からモルモットを譲り受けました。そして、ゆり組・もも組みんなで集まり、モルモットを迎える会をしました。「まだ0歳の子です。新しいおうちだから、ドキドキしているかもしれないね。びっくりしないように、順番に会いに来てね」と教師が伝え、3～4人ずつゲージの中のモルモットの近くへ。「わあ～かわいいね」「もぐもぐしてるね」「あ。うごいたね」などと、じっと見つめながら小声で思い思いに感じたことをつぶやいていました。「なまえはどうする？」「みんなできめたいね」ということに。少しずつ親しみ、仲よくなりながら、相談して名前を決めたいと思います。早速、思わずクスッと笑ってしまうような、微笑ましい名前アイデアが出ています。ご家庭でも話題にしてみてください。

新しいいのちとの出会いを大切に、必要な世話や関わり方など、直接体験として学んでいく機会となるようにしていきます。そして、愛情をもって、大切に飼育していきます。

夏休み・冬休みなどの休みには、モルモットやカメをお泊りさせていただけるご家庭を募集しています！  
どのような名前になるか、お楽しみに！